

子どもたちの心に思い出の襷を

二月に入ったと思ったら、久しぶりの雨模様です。

一足早い「節分」が保育園にやってきました。「さくら組」の子どもたちが炭火で焼きたいわしのおいしと煙が園舎に漂います。焼き立てを少しずつ味わって、「おいしい」を連発する子どもたち。卒園間近な子どもたちの心に、きっと保育園時代の思い出の襷（ひだ）をつくることでしょう。

新しい年が始まったばかりですが、私たちを取り巻く社会情勢はきびしく、また子どもたちを巻き込む事件があとを絶ちません。大津市では、一九七四年に「乳幼児健診大津方

式」が制度化され、その年を「保育元年」と呼んで今日まで、大津に生まれたすべての赤ちゃんの発達保障をめざす取り組みが進められてきました。保育の現場で働く私たちは、どんなに状況が厳しい時でも、子どもたちを中心に据えて、常に愛情と笑顔を保ち続け、精一杯、保育の中で生きてきたと思いを強くします。

これからも、子どもたちの育ちの基盤を保育所が守り、そこで働く者も人間らしい生活が保障されるように、保護者のみなさんや多くの仲間たちとともに、歩み続けたいと思います。



節分 鬼がやってきた